

読む湘南

～少しだけためになる海の話～

vol.15
2013.3

湘南
繋がろう



みんなで湘南の 未来を考えよう！

湘南未来フォーラム 2013 IN 江の島

■片山清宏 松下政経塾卒塾フォーラム

海が好きで湘南が好きで、この地域をもっと良くしたいと思って立ち上げた「湘南ビジョン研究会」。1年9ヶ月に渡る活動の報告として、私たちは2013年2月9日、「湘南未来フォーラム」を開催しました。仲間と練り上げた未来への提言を、ここに発表します。

——湘南ビジョン研究会代表 片山 清宏

◆第1部 研修成果発表

地域主権社会の実現

—湘南から日本の未来を切り拓く

松下政経塾 第31期生 片山 清宏

■志の原点

みなさん、こんにちは。松下政経塾第31期生の片山と申します。私は藤沢市の鵠沼というところで生まれ、37年間、この地で暮らしてきました。海から自転車で5、6分のところに住んでおりまして、小さな頃から海が身近な遊び場でした。本当に海が大好きで、高校のときにウィンドサーフィンを始め、大学のとき



にサーフィンにはまっちゃったんですね(笑)。当時は年間300日以上上海に使っていて、大会にも出ていました。一応大学にはちゃんと行っていたんですけどね。

私は小学生のとき父親を病氣で亡くしております。その後、母が1人で育ててくれました。母にはとても感謝しています。そういう環境の中で、困っている人のために何かできるような仕事につきたいというのが、無意識に私の頭の中にあったのだと思います。

それで縁があって厚木市役所に入所することができました。市役所には11年間いて、様々な部署を経験ましたが、その中で4年

◆湘南未来フォーラム 2013プログラム◆

第1部 研修成果発表

地域主権社会の実現

湘南から日本の未来を切り拓く
松下政経塾31期生 片山清宏

第2部 実践活動報告

湘南の未来に向けて 私たち市民ができること

10年後のまちづくりビジョン
「湘南都市構想2022」最終提言発表

「湘南ビジョン研究会」の4分科会が、それぞれの最終提言を発表します。来場者の投票で「最優秀提言」を決定します

第3部 パネルディスカッション

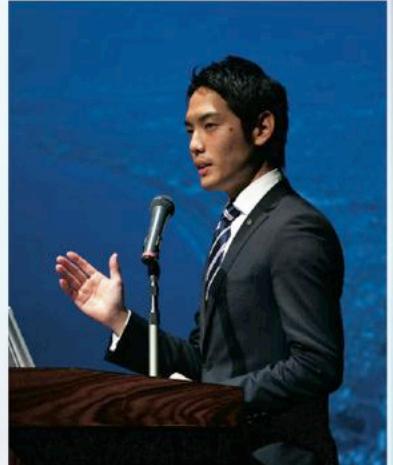
みんなで考えよう！ 湘南の未来、日本の未来

「湘南ビジョン研究会」各分科会の代表者4人とパネリスト3人によるクロストーク



司 J-waveナビゲーター
サーフライダーファウンデーション
ジャパン事務局長

松原 広美氏



間、国民健康保険の窓口業務をさせていただきました。国民健康保険の窓口に来られる方はリストラされてしまった方、離婚された方、あるいは生活保護の受給手続きに来られるといった方がたくさんいらっしゃいます。私はそういった困っている方たちの手助けをしたいと思って市役所に入ったので、すごくやりがいをもって働いていました。

しかし、そこに来る方というのはそれぞれ抱えている状況が違うんです。例えば、離婚されて苦労されている上にお子さんが障害を持っています…。一生懸命窓口で対応するんですけど、1人1人状況が違うので大きな壁にぶつかってしましました。公務員の業務、特に市役所の現場の業務というのは、国の法律や制度でがんじがらめになっているんです。こうすればこの人を救ってあげられるのに、ということができなかった。

私は市民のために働きたいという希望を持って市役所に入りました。しかし、現実にはカウンターにいる目の前の1人も救うことができない。そんな悩みをずっと抱えて4年間、窓口に立っていました。最終的には10年以上かかりましたが、中央集権体制といわれる国の法律や制度の縛りに強い問題意識を感じ、3年前に市役所を退職して松下政経塾の門を叩きました。

私の志は「地域主権社会の実現」であります。困っている1人1人の市民が幸せになり、そして個性ある地域1つ1つが元気にならなければ、絶対に日本は良くならない。そういう強い思いで松下政経塾に入塾しました。

■松下政経塾での鍛錬

私が実際に松下政経塾に入塾をして、どんな研修をして何を学んだのか。塾は一言でいうと「人間と志を磨く道場」です。松下政経塾では、何か難しいテーマで演説の練習をやっているんじゃないとか、選挙のノウハウを教えてもらっているんじゃないとかよく言われますが、そういうことは一切やっておりません。「人間を鍛えるような研修」を毎日愚直にやっているところなんです。

例えば塾生は毎朝6時から1時間、掃除をします。雨でも雪でも嵐でも、毎朝掃除をします。礼儀作法も徹底的に叩きこれます。私がすごく印象に残っている研修が茶道です。塾生は1年生の時、塾の施設の中にあるお茶室で茶道を習います。



最初、平日の昼間にお茶を点てている自分が嫌になってしまいました。私は34歳のとき入塾しましたから、同世代のビジネスマンや公務員は第一線で夜遅くまで働いている。一方で、自分は平日の昼間からこんなことをやっていいのかと。本当に悩みました。

でも今にして思えば、非常に貴重な時間でした。日本の伝統文化を学べたということもあります、私にとっては自分と向き合う時間をいただいたいというところが本当にありがたかったと思っています。「なぜ、自分は公務員をやめて今ここにいるのか」「卒塾後、公のために自分の人生を何に捧げるのか」。そういうことを突き詰めて考える時間をいただきました。

それ以外にも塾では、書道や剣道をやります。私は最初、剣道が大嫌いだったんですけど(笑)。朝5時過ぎからやるんですよ、剣道を。眠いし寒いし痛いし、本当につらかった

です。でも、おかげさまで2年間で2段まで取得させていただきました。

塾の研修で一番つらかったことは全寮制での共同生活そのものでした。私の同部屋は22歳の新卒だったので一回り違うんですね。そうした年齢も経歴も全く違う同期全員と、毎日同じ研修をして議論していると、当然ケンカになる。会社員のときは家に帰って、あるいは飲み屋で愚痴でも言えばいいんですが、塾生は24時間365日ずっと一緒にいなければならない。寝る時間もないようなハードな研修の中で、みんなストレスを抱えているので、時には人格を否定し合うようなことも起きてしまう。そういう人間の悪い部分も含めて勉強させていただきました。振り返ってみると、3年間のうち前半1年半の「基礎研修」は、まさに人間を学び、志を磨く研修だったのだと思います。

後半の1年半の「実践研修」は、自分でテーマを決めて企画から運営まですべて自己責任となります。これまでずっと一緒だった同期もバラバラになって、「外交」「教育」「医療」といったテーマで研修を進めていくことになります。

私の志は「地域主権社会の実現」。地域から日本を良くしていきたいという思いから、具体的なテーマとして「海を活かしたまちづくり」を掲げました。海が大好きで、このテーマなら卒塾後もずっとやっていけると思ったからです。最初は「海岸のゴミ問題」を研究テーマにして、私の母校・鵠沼中学時代の仲間を中心に、10人で「湘南ビジョン研究会」を立ち上げ、ビーチクリーンをやったり、「かながわ海岸美化財団」にお願いして清掃作業に同行させてもらったりして、海岸ゴミを調査しました。さらに、海底に沈んでいるゴミの実態も調査しようと、「海をつくる会」と「日本釣振興会」にご協力いただき、「江の島海底清掃プロジェクト」を実施しました。

実は私、ダイビングの経験はまったくなかったんですね。でも、松下幸之助塾主の言う「現地現場主義」がやは

500人超の人が集まった湘南未来フォーラム2013



り大切だと思い、2週間前に伊豆までライセンスを取りに行きました。海底清掃が人生2回目のダイビングで、ど素人のチャレンジでした。水深は5㍍くらいで、専門のダイバーは1人でタイヤなどをどんどん拾い上げていくんですが、私は空き缶とか小さなゴミを拾っていました。しかし、ヘタなのでうまく上げられないんですね。それで海底に向けフィンでバタ足をしてしまったんです。そうしたら海底の砂を巻き上がってしまい目の前が真っ暗になっちゃって。でもすぐ上がっていかっか悪いで、ずっと海底でおとなしくしたりしていました(笑)。

実際に上がったゴミは、漁業用のロープに釣り針や釣り糸が絡んだ大きな固まりや釣り人の折りたたみイス、タイヤ、自転車、建設現場で使う鉄筋や木材などでした。不法投棄もあったのかもしれません。

その後、学者や公務員、NPO、自治会など、1年間で200人以上の方にヒアリングを行いました。その結果、気付いたことがあります。最初は海をきれいにしたい!という

「環境」の面だけを見ていましたが、湘南海岸では漁業や観光産業などの「経済」も重要だし、住民が一番不安に思っている「防災」も重要だということです。この「環境」「経済」「防災」の3つが相まって初めて理想の湘南海岸を実現できると考えました。しかし、この3つは利害が複雑に絡み合っており、企業、行政、NPO、団体等がそれぞれ独立して対処しているため問題が解決できないのです。

そこで私は湘南地域の住民や企業、行政等が一体となるような大きな目標をつくるべきだと考え、「湘

汚いと言われる湘南だからこそ、目指す価値がある「ブルーフラッグ」の取得



南ビジョン研究会」で2つの目標を掲げました。1つは海岸の国際的な環境認証基準「ブルーフラッグ」の取得。もう1つは「湘南都市構想2022」の策定です。

1つ目の「ブルーフラッグ」とは、世界規模の環境NGOであるF E E（国際環境基金）が行っている海岸の国際的な環境認証基準です。安全、衛生・清潔、美観、環境保全などの一定の基準をクリアした海岸はF E Eから認証を与えられ、その証明である「ブルーフラッグ」をビーチに掲げることができます。世界では40カ国以上、3000以上のビーチで認証されていますが、日本ではまだ認証事例はありません。湘南海岸は汚いと言われていますが、だからこそあえて湘南のビーチから日本初の取得を目指そうというものです。

2つ目の「湘南都市構想2022」とは、10年後の湘南地域のまちづくりビジョンです。特長は3つあります。1つ目は「行政」ではなく「市民」主導でつくっていこうというものです。行政計画は、国の法制度など様

々な制約の中で策定しますが、我々はそういう法制度の縛りは考えず、自分たちの理想を率直に出し合ってビジョンをつくってきました。2つ目は「総花的」ではなく「湘南の特性」を活かそうというものです。行政計画は、これも重要、あれも重要となって、結局特徴がない計画になりがちです。我々は行政ではありません。この構想では「海」を前面に出して、湘南の持つポテンシャルを最大限に活かしたビジョンとしました。そして3つ目は「各自治体単独」ではなく「連携」を目指そうというものです。湘南を一体の地域として、各自治体が連携してそれぞれの地域の弱みを補い、強みを相互に引き出していくビジョンにしました。

湘南の範囲は永遠のテーマですが、我々は葉山町から二宮町までの9市町と定義しました。この湘南地域から約40人の市民が集まり、10ヶ月間、「教育・スポーツ」「観光・産業」「医療・福祉」「防災・交通」の4つのテーマ別の分科会に分かれ、延べ80回の会議を行い、議論してきました。そして最終的には、24本のプロジェクト（提言）にまとめました。本日、第2部で「湘南ビジョン研究会」のメンバーから発表してもらいます。

これら24本のプロジェクトを策定するうち、各分科会を網羅する取組が浮かび上がってきました。それが「なぎさ構想」です。簡単に言うと、葉山町から二宮町までの海岸線にサイクリングロードを整備し、大磯、茅ヶ崎、鵠

沼、逗子などに防災や観光、教育機能を持つ拠点をつくって、湘南特有の広域的な課題を解決していく構想です。この拠点を「なぎさの駅」と名付けました。「なぎさの駅」は、湘南の新鮮な魚介類や農産物を売る直売所や土産物店を入れて新たな観光名所にするとともに、ライフセーバーの活動拠点、海上交通（シーバス）の駅、環境教育の拠点（海の学校）の機能も併せ持ち、地震の際は津波避難タワーとしての役割も果たせるように考えました。

この1年半の実践活動を通じて学んだのは、「市民活動の可能性と限界」です。私は行政経験を経て、この1年半は一市民の立場で活動してきましたが、市民の多様性、発想力、ネットワーク、さらに地域への強い想いと行動力はすごいもので、今後の市民活動の大きな可能性を感じました。しかし一方で、「ブルーフラッグ」や「湘南都市構想2022」を実現していくには、あまりに多くの利害が絡んでおり、市民だけで進めていくにはどうにもならない壁がありました。そして「行政・政治の重要性」を痛感したのも事実です。対立した利害に対して、大きなビジョンと方向性を示していくのは政治の役割です。さらに行はるは、高い専門性と情報量、組織力をもっと活かして、単に法の執行機関にとどまらず、民意を汲みとて市民とともに活動していく必要があると思いました。

サイクリングロードを整備し、海辺に防災、観光、教育の拠点をつくる「なぎさ構想」

■将来展望

私は3月に卒塾します。最近、誰に会っても4月以降の進路のことばかり聞かれます(笑)。しかし、まだ決まっていないというのが正直なところです。自らの志を実現するために、いろいろな選択肢の中で自分がどの道に進むのが一番良いのかを、自分なりに考えているところです。

ただ1点、これまでの行政経験と松下政経塾での研修を経て、政治の道に進もう、政治を自分がやらなければいけないという思いがどんどん強くなっていました。入塾当初は本当に政治の道に進んでいいのか、すごく不安で迷った時期もありましたが、今はその決意がしっかりと固ま

っています。

今日改めて塾での研修成果は何かと問われたとすれば、私は「人間を学び、自らの志を固める3年間でした」とお答えしたいと思います。正直3年前、私は行政のプロであり、政策は誰にも負けないと自信とプライドを持って入塾しました。しかし、塾ではそのプライドを全て捨て、生身の人間として自分に何ができるのかを自問し、まさにゼロから人間と志を高める研修を愚直に進めてきました。

しかし、重要なのはこれからです。「素志貫徹」。今後も絶対に自らの志を違えることなく、地域のため、そして日本のためにしっかりと精進を続けていきたいと思っています。湘南を日本一素晴らしいまちにして、そのモチ



ルを全国に広げていくこと。そして最終的には、市役所の現場で問題意識を感じた日本の統治機構の抜本的な改革を成し遂げることが自分に与えられた生涯の使命であると思っています。

今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。ご清聴、誠にありがとうございました。

◆第2部 実践活動報告 「湘南ビジョン研究会」の4つの分科会が10ヶ月に渡って議論し、策定した構想を発表しました。発表後、来場者に最も良いと思う提言に投票していただき、最優秀提言を決めました。市民参加型の「政策コンテスト」です。

10年後のまちづくりビジョン「湘南都市構想2022」最終提言発表 湘南の未来に向けて、私たち市民ができること

防災・交通分科会

加藤 道夫氏

【提言】

誰もが湘南防災マイスター

—プロジェクトNo.20

自転車で湘南の風を感じよう！

—プロジェクトNo.23

みなさん、こんにちは。防災・交通分科会の加藤と申します。非常に緊張しています(笑)。湘南の海というのは世界に誇れる素晴らしい景観、波、風があり、マリンスポーツが繁栄する条件を備えています。私はその波に魅せられて、湘南で35年もサーフィンをやってきていました(笑)。

湘南で1つ残念なのは、ビジョンが共有されていないことです。行政同士が横の繋がりで連携すればもっともっと湘南は輝くのではないかと私たちは考えました。湘南は国際海浜リゾートを目指すべきだと思います。オーストラリアのゴールドコーストもハワイのワイキキも、戦略的につくられた国際観光都市です。湘南はいいものを持っています。

しかし、お金をかけねばいいというものではありません。私たちは「日常に活かす」という視点で、プロジェクトを考えました。今日は2つのプロジェクトに絞ってお話しします。防災分野の「誰もが防災マイスター」と交通分野の「自転車で湘南の風を感じよう！」です。

まずは皆さんに3つ質問があります。1問目。「ご自宅の津波避難場所、または広域避難場所が分かりますか？」。分かる人は手を挙げてください。さすがです！2問目。「到達する最大の津波の高さと時間、さらにオレンジフラッグの意味を知っていますか？」。だいぶ減りましたね。オレンジフラッグとは災害時、ビーチに掲げられる避難の合図のことです。では3問目。「防災士や災害救護ボランティアなどの講習を受講し、油圧ジャッ



キやチェーンソーを扱えますか？」。数名いらっしゃいますね。素晴らしい！

今の1から3の質問全てに「はい」と答えられた方を、私たちは「湘南防災マイスター」、略して「湘防マイスター」と名付けました。大災害が発生したときには自衛隊、警察、消防、海上保安庁などの「公助」は期待できません。なぜなら、その方たちの多くも被災者だからです。生死を分ける72時間以内に助けが来るとは限りません。であるならば、自分のことは自分で助ける「自助」、それから家族、近隣住民で助け合う「共助」が大事であると考え、私たちはこの「湘防マイスター」を提案しました。10年後には50%の方が3番目の質問まで手を挙げていただくことを目標にしています。

「湘防マイスター」は、自助力と共助力を高める仕掛けになります。「救われる人」が「救う人」になるということは防災に強い地域をつくることです。高齢者や子どもなどの弱者に優しく、リスクマネジメントを考えられる人が多いまちは、幸せな地域であると考えます。

既に湘南では「共助」の取組が始まっているところがあります。辻堂の海浜公園の目の前にあるマンションです。自分たちの積立金を使って屋上に上がる通路や階段を整備しています。

災害時

「救われる人」が 「救う人」に なれるまち

2つのプロジェクトは「自転車で湘南の風を感じよう！」です。ここからは夢のある話になります。二宮から葉山までは約35kmですが、ここに複数の拠点「なぎさの駅」を整備します=次ページにMAP。ここにはレンタサイクルがあって、どこでも自転車を借りられて、どこでも乗り捨てができる。ライフガードがいて、更衣室があってシャワーも浴びられて、ランナーはそこで着替えて走り出したり、そこから通勤したりしてもいい。飲食店、救護所があってもいい。そういう拠点にしたいのです。

岩手県と宮城県には、がれきを使って森の防潮堤をつくるという計画があります。湘南の場合はただ森をつくるのではなく、この中にサイクリングロードを通します。現在のサイクリングロードは南風が吹くと砂で埋まってしまい、自転車は通れません。これを10㍍くらい盛土して、その上にサイクリングロードを作ったらどうかという計画です。

災害は忘れたころにやってくるという諺（ことわざ）がありますが、最近は、災害は忘れる前にやってきます。みなさん、どうか3.11の教訓を活かしてください。

観光・産業分科会

リーダー 壱岐 信二氏

【提言】

『なぎさの駅』～観光元年
プロジェクトねり

観光・産業分科会リーダーの壹岐と申します。私は茅ヶ崎市の南湖で育ちまして、今は厚木に住んでいます。

まず、湘南の魅力について考えましょう。皆さんご存じの通り、湘南では窓を開けると潮風が吹いてくる。虹がきれいでおもしろい雲もできる。

海だけではなく山も歴史もある。おしゃれで知的な田舎という感じですよね。湘南は海とまちと文化と山が一体化しています。

しかし課題もあります。湘南というブランドばかりが先行している。実はどこからどこまでが湘南かすら明確でない。行政は「おらが湘南、私が湘南」と名を取り合ばかりで、なかなか連携しようとしません。産業については東海道沿線に戦後多くの工場ができましたが、近年は撤退が相次いでいます。例えば藤沢市ではこの10年間で1兆5000億円の収入と1万5000人の雇用がなくなってしまいました。海でイベントを行えば苦情が入り、台風が来れば海岸は漂着ゴミで埋め尽くされます。市が主催のイベントは、どうも地元の人ばかりが楽しみ過ぎて、なかなか外からお金が入ってこないという実態もあります。

こうした湘南の魅力と課題を踏まえ、私たちは5つのプロジェクトを考えました。その中で今日は「『なぎさの駅』～観光元年」についてご説明します。

来年度、さがみ縦貫道（圏央道）が開通すると東京の三多摩地域や埼玉県から湘南まで1時間で来られるようになります。このインフラ面での大きな節目に際し、いかに新たな観光客を誘致するか。私たちは3つの取組を考えました。1つ目は「魅力あふれる湘南観光のための土台づくり」です。防災・交通分科会の発表にもあった通り、サイクリングロード沿いに複数の



さがみ縦貫道が開通する来年度は観光客誘致の大チャンス

「なぎさの駅」を開設し、海産物販売、バイクシェアリング、なぎさの交番、津波避難タワーなどの機能を集約して観光・防災の拠点にしようといふものです。

2つ目は「徹底的な地域の『宝さがし』」です。今ある海、眺望（富士山、江の島、砂浜）、体感（波や風の音、潮の香りなど）などのアドバンテージを活かしていきます。サーフィン、スイーツ食べ歩き、文学歴史巡りといったピンポイント・ガイドの育成や「海の家」の組合共同経営による「なぎさの足湯」なども考えています。夢のある計画としては、茅ヶ崎の漁港からえぼし岩までを橋でつなぐ「えぼし岩ブリッジ」という構想もあります。

3つ目は「地域の参画による観光の育成と情報の発信」です。湘南の海はロシア人や韓国人にとって冬でも暖かいと聞きますので、お寺などを宿泊施設にして外国人を呼び込みます。また、ロードレーサーやバイク愛好家を「なぎさの駅」へ誘導して、コンビニだけではなく地域にもお金を落としてもらいます。ペットにはお金を惜しまない人も多いので、ドッグカフェも整備したいと思います。

これらを進めていくためには、ケーススタディでやれるところからやってみようということが大事だと思います。市民にアンケートを取って、きれいな富士山が見える場所や観光ルートなどを発掘するのもいいかなと思っています。

今日はこんな格好（ハッピ）をしてきたので、最後にちょっと歌でも歌おうかなと思います（笑）。

「茅ヶ崎名物、左富士♪、上り下りの東海道♪、松の緑と吹く風は～♪」。

いいですね、日本の歌って。でも、これからは国際化ですね。海外からのお客さんへのおもてなしも大事かなと思います。

■「なぎさの駅」整備計画MAP



湘南都市構想2022	
湘南の次世代を担う人づくり	教育 郷土にあふれるまち「湘南」
湘南のかかげたエネルギーを出し巻	スポーツ マリンスポーツが盛んなまち「湘南」
つづける命とまちづくり	観光 国際海浜リゾート「湘南」
災害に強いまちづくり	産業 イノベーション産業都市「湘南」
「湘南のまちをつなぐ」	
災害に強いまちづくり	医療 「湘南ヘルスツーリズム」の確立
防災に強いまちづくり	医療 高度医療（最先端医療）の提供
交通に強いまちづくり	医療 誰もが楽しめながら享受できる保険事業の実施
防災に強いまちづくり	福祉 50歳からの「湘南大人大学」
交通に強いまちづくり	福祉 介護・育児を支え合うコミュニティづくり
防災に強いまちづくり	福祉 ユニバーサルスポーツ大会の開催
交通に強いまちづくり	防災 誰もが湘南防災マイスター
交通に強いまちづくり	防災 地域防災10日間プラン
交通に強いまちづくり	防災 津波避難ビル充実大作戦
交通に強いまちづくり	交通 自転車で湘南の風を感じよう！
交通に強いまちづくり	交通 北斎が愛した富士に違う“さがみなぎさ新交通”

教育・スポーツ分科会

リーダー 坂本 勝敏氏

【提言】

郷土を学ぶ「湘南学」

—プロジェクトNo.1

教育・スポーツ分科会リーダーの坂本と申します。私は生まれも育ちも藤沢です。この「湘南都市構想2022」の策定に参加し、自然環境、文化、歴史、人材などいろいろな湘南の良さを学びました。ただ私自身、学校教育でそのような環境を活かした教育を受けたかというと、そんな記憶はありません。これは非常にもったいないことではないでしょうか。教育・スポーツ分科会では、この環境を活かすプロジェクトを提言します。

「郷土を学ぶ『湘南学』」は世界の舞台で生き抜くために必要とされる日本人としてのアイデンティティ、その基礎となる「郷土を愛する力」を兼ね備えた「湘南人」の育成を目指します。

まず中学校に「学校支援地域本部」を設置し、小学校では「放課後こども教室」を実施します。「学校支援地域本部」は、地域ボランティアなどの協力により、学校運営や教育活動を行う組織です。全国で2500本部が設置されていますが、湘南地域にはわずか3本部しかありません。地域や保護者の方々が多く参画しないと運営が成り立たないため、地域や家庭の結束力が強まる効果があると考えます。もう1つの狙いは「湘南学」の先生として協力いただける人材バンクのようなものを構築することです。

湘南の各方面で活躍されている方々を教育現場に引っ張り出し、分野ごとに講師になっていただこうことを想定しています。

「湘南学」とは「湘南を学ぶ」と「湘南で学ぶ」の大きく2つに分かれます。

まず「湘南を学ぶ」です。郷土を愛するには、その地域をよく知るこ

とが必要です。現在の学校教育でも地域を学ぶ機会はありますが、十分ではありません。そこで年間50~70時間ある総合的な学習の時間の約半分を「湘南学」の時間とします。



例えば小学校3年生では「地域の地名の由来を調べよう、地域のお祭りに参加しよう」の授業を行います。その地名の由来を調べると、もともとそこがどのような場所であったかわかる場合があります。例えば鵠沼という名前は、かつてその辺りに沼がたくさんあって、白鳥を指す鵠（くぐい）が多く飛来していたことが由来と言われています。沼が多かったということは地盤が弱いところが多いということで、地震の際は、より注意しなければならないことがわかります。

次に小学校5年生では「地域で活躍している人を調べよう、地域活動に参加しよう」の授業を行います。まず地域でどのような方たちが活躍しているかを調べます。そうすると、地域は自治会長や商店会長、交通指導員など、多くの方々によって支えられていることがわかり、

感謝の気持ちが湧いてくると思います。また、自らも活動に参加することで、さらに地域を学ぶ機会を得ると同時に地域貢献の成功体験を得ることができます。

最後に中学校3年生では、地域で活躍している人に深くインタビューをし、湘南に生きる大先輩

から人生のヒントを学びます。そして互いに発表し合う中で、各自が自分の将来を考えるきっかけをつくります。「湘南学」の総仕上げとして、湘南とはどうあるべきかを考え、それを各校の代表が集まる「湘南子ども議会」で発表します。そこでは湘南というエリアで意見が交換されるので、より広い視点をもつことに繋がります。

続いて「湘南で学ぶ」です。各教科の中で、もっと地域資源を活用した授業を開発することを推奨します。例えば海側の学校では体育の授業にサーフィンを取り入れたり、相模川付近の学校ではカヤックを取り入れたり。理科の授業では、砂浜の生物や植物に触れて学んだり、社会の授業では地域の道路が産業面でどのような役割を果たしているなどを学びます。

ここまで多少、突拍子もないことも提言してきましたが、これらの授業を全て学校の先生にお願いすることはかなり厳しいでしょう。保護者や地域住民の参画がキーとなります。それぞれの地域に住んでいるその道のプロを教育現場に引っ張り出して、教員と一緒にになって学校教育をつくっていく。「湘南学」とはそういうものだと考えています。

多くの人が地域を学び、地域を愛するようになり、その思いがまた次の世代を育んでいく。そのような循環性のある社会を、ここ湘南で築き上げることができれば最高です。



医療・福祉分科会

リーダー 東 晋吾氏

【提言】

50歳からの「湘南大人大学」
—プロジェクトNo.17

医療・福祉分科会リーダーの東と申します。私は藤沢在勤で、9年ほど藤沢に住んでいました。両親の田舎が日本海のそばだったので海は大変身近な存在でしたが、初めて鵠沼海岸の駅を降りて湘南の海を見た時、本当にまぶしかった。人も地元愛にあふれた方が多くて、そんな方々ともっと関わりを持っていきたいと思い、この地で就職することにしました。

医療・福祉分科会のコンセプトは「湘南の源となる輝きつづける命と絆づくり」。医療・福祉の充実を、自分たちが関わりながら創っていきたい。私たちはそう思って議論を進めてきました。その結果生まれた6つのプロジェクトから、今日は「50歳からの湘南大人大学」についてご説明させていただきます。

皆さんは「PPK」ってご存知ですか？はい、そうです、ピンピンコロリです。ピンピンコロリと寿命まで輝くためには、生きがいを持つこと、日常的に活動すること、そして仲間をつくることが大切です。神奈川県では単身者や高齢者が全国を上回る勢いで増えています。これまでバリバリ働かれてきた方も、振り返ると地元に繋がりがなかったり、健康に不安が出てきたり、親の介護で会社を辞めた途端、経済的に苦しくなったり…。そんなリスクに向き合う必要があると私たちは考えました。

「湘南大人大学」は、医療や介護に極力頼らない「自立した健康づくりの場」であり、「湘南好き同士が繋がる場」、そして集まったそのエネルギーをちょっとお借りして「周りも元気にする場」でありたいと考えています。

「湘南大人大学」のゴールは「地域で輝くかっこいいオトナ」を増やし、そしてその背中に憧れる若者を育てることです。

対象は50歳以上のオトナ。これは定年後の第2の人生

への助走期間を十分取るためにあります。入学試験は特にありませんが、条件として卒業後は地域で活動していただくことをお約束していただきます。力



リキュラムは「もっと楽しく、おしゃれに」。学部は「湘南で学ぶ」人生学部と「湘南を学ぶ」なぎさ学部としていると考えています。

では具体的に何をやるのか。私たちは、まず直近の活動として「プレ講座」を開講します。テーマは「農」。

「農」といえば、安全で美味しい野菜をつくる、というイメージが浮かびますが、1人で就農することが難しかったり、休耕地・休耕田、後継者の不在など課題も多々あります。最近では種や苗の保全といったことも言われています。湘南であれば鎌倉野菜が有名ですが、こうした湘南ならではの野菜を守っていくことはとても大切なことだと思うのです。湘南の「農」に対して問題意識やご意見を持っている方と一緒にすることで、面白いカリキュラムをつくれないかなと思いました。この場から、その仲間を募りたいと思います。

今日は講師の中越（なかごし）節生さんにもお越しいただいています。

中越 「藤沢市の善行で八百屋cafe「八〇八」をやっています中越と申します。用田で畑をしていて、農薬や肥料を使わない自然栽培の野菜を作っています。その野菜は八百屋cafe「八〇八」で直売し、調理もしてお酒とともに提供しています。農の相談や農の普及活動もやっていまして、「ふじさわ観光親善大使」のつるの剛士さんも仲間の1人です。湘南野菜のPRと一緒にやっています。彼は朝にサーフィンをして、その後畠で野菜を収穫して都内に出勤する



という「湘南農スタイル」を実践しています。これは非常に贅沢な生き方の1つですので、こうしたライフスタイルを皆さんにもぜひ広げたいという気持ちで、この講座に協力させていただきました。「農」と「湘南農スタイル」の普及をどんどん一緒にやっていきたいと思っています」

中越さん、ありがとうございました。湘南大人大学のプレ講座の開講は3月16日。第1期生は10名限定です。初回はざっくばらんな意見交換を行います。その中で皆さんの意見をお聞きし、2回目以降の活動につなげていきたいと思います。このプレ講座の結果を踏まえて、湘南ならではの海と関連の深いテーマなども実施していきたいと考えています。一緒にやっていただける方がいらっしゃいましたらぜひ、お声をかけてください。

そして長期的には湘南大人大学で生み出したアイデアを世界に向けて発信したり、湘南ならではのビジネスモデルをつくって、湘南をもっともっと元気にしていきたいと思います。



みんなで考えよう！湘南の未来、日本の未来

片山 第2部の発表者4人からの提言を踏まえて、今からはパネリストの松沢さん、朝比奈さん、宮川さんにも加わっていただき、議論を深めていこうと思います。私はコーディネーターを務めさせていただきます。それではさっそくパネリストのお三方から自己紹介と、さきほどの第2部の講評をいただきたいと思います。

松沢 皆様こんにちは。前神奈川県知事の松沢成文と申します。というより、この前の東京都知事選で見事落選した松沢成文といった方がわかりやすいかもしれません(笑)。今日は私の同志であり、松下政経塾の後輩でもあります片山さんの卒塾に向けたフォーラムということでお招きいただきました。私が驚いたのは、この湘南ビジョン研究会のみなさんが年間に80日くらいですか？集まって議論を重ねて分科会をつくって、それでここまで政策を構想して発表した。これに感銘を受けました。市民のみなさんの本当の手作りです。ここまで短い時間で成果をあげたことは、お世辞抜きで素晴らしいと思います。それが私の第一の感想です。

私は片山塾生とは色々なご縁がありまして、彼が厚木市役所から神奈川県に出向で来てくれていた時、私がつくった総合政策がどこまできちんと推進できているかを評価する仕事をやっていたらいたんです。それから私が自分のマニフェストに対してどこまで真剣に取り組んでいるかを評価する委員の1人でもありました。ですから私はこの4、5年の間、片山さんにずっと評価され続けてきました。そういう間柄ですね。

私が知事時代に県民のみなさんと一緒に考え、実現させてきた政策の中で、ここ湘南に関わりのあるものをいくつかご紹介させていただきます。

交通や観光に関わることでいえば、国道134号線。慢性的な渋滞が続いている、週末の観光客はおろか、地域の人の生活道路も遮断されてしまって動けない。こういう状況が続いていましたが、ようやく平塚から江の島までを4車線化することができました。

環境の問題については受動喫煙防止条例です。公共施設は完全分煙にするという条例を全国で初めて実現しました。これに合わせて、海岸も禁煙にする条例を提案しました。反対もずいぶんありました。でも世界の有名な海岸はすべて禁酒禁煙です。日本はお酒もタバコも自由。こんなことではブルーフラッグなんて永遠に実現できません。そこで分煙ではありますが、海岸では灰皿のあるところ以外では禁煙という条例を出しました。砂浜のゴミも減りますし、受動喫煙も防止できます。海水浴場では子供はみんな裸ですから、火傷も防げる。安全で清潔で健康的な海岸が

実現できるという条例を全国で初めて神奈川県から始めることができました。

片山 続きまして朝比奈さん、よろしくお願いします。

パネリスト 前神奈川県知事
松沢 成文氏



パネリスト
青山社中株式会社筆頭代表(CEO)
中央大学客員教授

朝比奈一郎氏



朝比奈 ご紹介いただきました朝比奈でございます。ここに「青山社中株式会社筆頭代表」と書いてあります。何の会社か皆さん全然ございません。中央大学の客員教授がなぜ片山さんと繋がるのか、ここに私がなぜ立っているのか。

実は私、この会社を立ち上げて2年になるのですが、その前は経済産業省という役所におりました。エネルギー政策や鉄道などインフラの輸出をやっていましたが、そのかたわら「プロジェクトK」という活動を行っておりました。その時に片山さんと知り合いました。もう6～7年前ですね。

行政が、例えば少子高齢化などの課題に対し有効な手を打てていない中で当時の官僚の仲間たちと「霞が関はどうあるべきか」をただ批判するだけでなく建設的に考えていくという活動が「プロジェクトK」です。それが厚木市役所に勤務していた片山さんの目に留まりまして、様々な形で交流を続けて参りました。

その後、霞が関の中で右行ったり左行ったりしても仕方がないので、「青山社中」を立ちあげました。政策と人材をつくることで世の中を変えていきたいという会社です。政治や行政だけでなく、いろいろな人たちが政策をつくって、それを実現させていくという流れをつくっていかないといけないんじゃないかな、と私は考えています。ですから青山社中では政策支援のサービスと人材育成の塾というのをやらせていただいている。

「湘南ビジョン研究会」の提言を見て、これは本当に成功するんじゃないかなと思いました。もの凄く戦略的なんです。戦略的とは一体何なのか。私は3つポイントがあると思っています。1つは長期的であること。霞が

関は残念ながら15年の間に12個もの戦略をつくったりしている。これは定義からして戦略ではないです。2022年を見据えているという、この長期性は非常に重要なんです。

2つ目に、それが非常に広範に渡っているということです。全体を見通した形で何かをつくっていくのが戦略です。その定義にかなっているなという気がしました。

3つ目は総合的であることですね。広範と総合は似ているようで、ちょっと違う。総合というのは横の調整をしているということなんです。縦割りで各部会が議論して、はい終わりではなくて、例えば「防災・交通」の分科会で議論された「なぎさの駅」のようなものが、「観光・産業」の分科会でも取り入れられています。相互に議論されているという形跡を物凄く感じます。素晴らしいですね。

片山 最後に宮川さんお願いします。

パネリスト
レディオ湘南パーソナリティー
フリーアナウンサー

宮川 浩子氏



宮川 フリーアナウンサーの宮川浩子と申します。地元藤沢の辻堂で生まれ育ち、現在も在住しております。

す。地域住民を代表して、ここに座させていただくことになりました。

私は1996年4月に開局しました「レディオ湘南」に、開局スタッフとして入社しました。2度の出産を経て、3年ほど前に家族が体調を崩したのを機に一度退職しまして、現在は地域で

できるお仕事をフリーランスとしてやらせていただいております。「ハミングふじさわ」という番組を開局からずっと担当しています。午後3時間の情報番組ですね。月曜日と水曜日、辻堂にありますMr.MAXというショッピングセンターのスタジオから放送をしております。

片山さんとの出会いは、番組内に「辻堂タイムズ」という地域新聞の記事を紹介するコーナーがあるのですが、そこで昨年、片山さんと湘南ビジョン研究会の記事を紹介する際に、ゲストとして来ていただいたのが最初です。

ここ数年、辻堂は駅前の開発がすごく進んでうれしい反面、松沢さんのお話にもありました。交通渋滞が生活道路にも影響してきていることに不便さを感じます。私の母は車イスで、少しの距離でも車で移動しなければなりません。ですが最近、特に週末は交通渋滞に巻き込まれてしまって、同じエリア内で移動するのに、どうしてこんなに苦労しなければならないのかなという思いがあります。今日聞かせていただいた発展的なビジョンは、湘南に住む皆さんのが「今まで以上」を目指してつくられたビジョンであり、これは素晴らしいことではあるんですが、今までできていたことができなくなってしまった場合の環境を、まず元通りにした上で今後の発展に向けて動いていけたら良いのかなと思いました。

片山 ありがとうございました。それではここから第2

部での提言の内容を突っ込んで議論していきたいと思います。会場からたくさんのご質問が私の手元に届いております。いただいた質問を私からそれぞれの発表者に投げかけ、それに答えていただいた後にパネリストの方からご意見をいただくという形で進めたいと思います。

1つ目は「自転車で湘南の風を感じよう！」。これは津波防波堤の機能を兼ね備えた10㍍の高台にサイクリングロードをつくるという壮大な提言でした。これに対して「海が見えなくなるので観光との両立はどう考えているのか」ということですが、加藤さん、よろしくお願ひします。

加藤 私ども防災・交通分科会メンバーの中に、地元の町内会長さんがいらっしゃいます。まさしく同じ質問をいただきました。眺望か、安心安全か。最終的には地域の住民が決めることだと思います。

片山 もう1つ、防災について。「誰もが湘南防災マイスター」です。「防災の自助力を高めるために具体的にどうするのか、その活動内容を教えてほしい」とのことです。

加藤 基本的に一番大事なのは義務教育で教えるということです。その子供たちが10年後20年後、大人になります。これを続けて行けば必ず50%になります。

片山 ありがとうございます。防災・交通分科会からは2つご提案がありました。今の回答を含めて、パネリストの方からアドバイス、ご意見がございましたらよろしくお願ひします。

松沢 景観と防災、最終的には地域の住民が決めるわけですが、茅ヶ崎は賛成が多いからつくりましょう、藤沢はやめましょうとなったら意味がない。そういうところで一番重要なのは県の役割なんです。広域行政の県がその地域の自治体をまとめて、みんなでコンセンサスを得るようにもっていくというのが県の役割ですね。東北大震災であれだけの被害が出たですから、海岸線をどう守るのかというのは国民全体の議論も必要でしょう。住民が何度も何度も議論をして、国会までこの議論をみんなでやっていくって決めていく。これが民主政治の國の在り方だと思います。

片山 宮川さん、実際地元に住んでいて、辻堂の海岸に高达10㍍のサイクリングロードができますよと言われたら賛成しますか？反対しますか？

宮川 3.11の時、辻堂でも津波警報が長時間出ました。海岸付近の私の友人は辻堂にある大きな大学に避難して、そこで一晩を過ごしたそうです。避難指定されている大学ではありますが、寝泊りをしたところが1階のガラス張りのフロアーだったらしいんです。津波の映像を見ていて、ここにその波が来たらと思うと不安でほとんど眠れなかったということでした。私の自宅は線路沿いなので、海拔表示が少し高くなっています。同じ辻堂でも海岸近くに住んでいる方と少し陸側に住んでいる方で思いや意見はまったく違います。

片山 ありがとうございます。次に観光・産業分科会にもご質問がきています。「観光で地元にお金が落ちるようになるための具体策はどのように考えていますか」というご質問です。

壹岐 やはり泊まる場所が必要ですね。泊まることでいろいろな商店街へ行ったり、茅ヶ崎の南口とかたくさんいい飲み屋がありますから遊んでいただいたり。ホテルも必要ですが、今ある民家などを利用したりして、泊まって湘南

長期的視野の重要性

壊れた部分を「元通りにしてから発展を目指すべき

スタイルを味わってもらう。早起きして散歩して膝ぐらいまで海に入って、朝ごはんはカフェで食べてダイクマ行ってみたいな(笑)。

片山 朝比奈さんは観光面でこの湘南地域、どうすれば地域経済が回っていくとお考えですか。

朝比奈 先ほど「なぎさの駅」という話がありましたが、全国では道の駅などを上手に拠点にして、地域の名産品を売ることでそこが名所化していって人が集まる、というやり方をしている地域もありますね。

片山 続きまして教育・スポーツ分科会です。大変厳しい質問がございます。「言っていることは分かる。ただ実現性があるのか? 現地調査はしているのか? 実際の事例はあるのか?」という質問です。

坂本 学校支援地域本部という学校の中に地域の方や保護者の方が入ってくる事例というのは全国でそれなりに進んでいるところもあります。湘南地域で言いますと、平成22年度は逗子・藤沢・茅ヶ崎で1本部ずつありました。湘南地域は人材がとても豊かですから、これを大きくアピールしていくばんどんどんこの学校支援地域本部が広がって、地域・保護者・学校が協力した教育が実現できるのではないかと考えています。

片山 続いては医療・福祉分科会の方に進んでみたいと思います。「いつ開催するのか?」「湘南以外に住んでいる人も参加できますか?」「何歳までが対象ですか?」「農以外のカリキュラムについて教えてください」。

東 まずは今回プレ講座を行い、3月から半年くらいかけて手法を学びたいと思っています。入学資格は湘南が好きで地域で活動したい方であれば、なるべくお受けしたい。あとはインターネットでの配信なども考えています。対象年齢については上限はないのかなと。目的のところで申し上げたピンピンコロリ、これには生涯現役であることが大事だと思いますので、そのように考えています。それから農以外のカリキュラムについてですが、湘南は自然が豊かで文化人の方も沢山いますので、カリキュラムはいくらでも出てくるのではないかと思っています。それが地域にどう繋がっていくのか? どう地域に活かされていくのか? は考えていかなければいけないと思っております。

片山 ありがとうございます。先ほど皆さまに投票していただいた政策コンテストの結果が今、届きました。松沢さんから発表していただきます。

松沢 この結果は私が決めた訳ではなくて、投票の結果ですから、どうぞケンカにならない様にしていただきたいなと。これから励ましも含めて、皆さんに投票をしていただきました。

3位は医療・福祉分科会67票。第2位は教育・スポーツ分科会72票です。そして第1位は防災・交通分科会の137票ということです。お分かりの通り、第4位は観光・産業分科会が42票という結果になりました。

片山 では1位に輝いた防災・交通分科会の加藤さんから一言お願いします。

加藤 防災を絡めましたので、やはり今は関心が高いのだと思います。観光は4位でしたが、ちょっと強調したい所ですね。湘南の風、波というのはサーフィンのスクールや体験に最高のコンディションなんです。例えばロシアや中国の方々はハワイやオーストラリアへ行ってマリンスロー

防災の知識こそ義務教育で

役人って立場離れると結構いい人多いよね(笑)



ツを体験すると言いますが、いきなり波の高い所っていうのは危ない。湘南は安全で景色が良くて、美味しいものが食べられる。絶対に観光に活かすべきです。

片山 では最後に各パネリストからまとめのお言葉をいただきたいと思います。

宮川 湘南には美しい自然がありますが、一番の財産は人だと思います。人と人の繋がり、そこから新しい発想が生まれて、そして実践に向かっていく。今日集まった皆さまが何か小さなこと1つでも湘南都市構想にご協力いただければ、確実に何かが変わると思います。

朝比奈 2つの「協働」が鍵だと思っています。1つは行政との協働です。役人って私もそうだったんですが、「立場離れると結構いい人多いよね」と言われることが多かった(場内爆笑)。立場がある役人の方とも一緒に、この提言を1つでも実現させていく。

もう1つの協働は広域の協力ですよね。栃木県の北の方、天皇陛下の御用邸がある所と将軍家に所縁(ゆかり)がある所が隣接している土地があるので、観光客の取り合いのようなことになっている。実は両方でうまく協働すれば、外国人を多く呼べるのに。先ほどの宮川さんの言葉ではないですが、湘南という繋がりで頑張っていただければと思います。

松沢 地域活性化の最大のポイントは教育です。人材育成。あるいは信念改革というか。その手段として、大学を有効活用してほしいと思います。今は少子化による過当競争で、大学もツブれる時代です。地域と付き合って地域とともに育っていく大学でないと存続が危ないわけです。ですから彼らも何かを求めているんです。

例えば地域の観光を考えるのだったら、観光を専攻している学生や教授がいるんですね。文教大学にいるんですね。教授や学生さんに参加してもらってフィールドワークをやる。地域の皆さんと一緒に観光の活性化を考えいくんです。今まで産学連携というと、新しい「技術」のためにというのがほとんどでした。そうじゃないんです。地域を活性化するために、大学と地域がいかに連携して何らか価値を生み出すか。湘南には素晴らしい大学がありますので、今後の計画に入れていただきたいなと考えました。

片山 ありがとうございました。本日は第1部、第2部、第3部と一貫してこれからの湘南のまちづくりについて議論をしてきました。我々湘南ビジョン研究会は市民だけでやってきましたが、市民だけでなく企業あるいは大学、行政との連携も必要だというお話をありました。これから湘南を考えるキーワードは協働、連携なのかなと感じました。

自慢のビーフシチューは仕込みに14～15時間
「うれしいんですが、注文が集中すると『また徹夜か…』と(笑)」

てい&ブレンドキッチン 會(くわい) Kuwai



片瀬海岸東浜のほど近く、先月2月11日にオープンしたばかりの「會(くわい)」。肉料理を中心に、夜はお酒との相性抜群のメニューでゲストをもてなす洋食店だ。

オーナーの佐藤栄治さんは福島県喜多方市の出身。店名も会津藩の旗印から取った。イチ押しの「ビーフシチュー」は会津若松駅前の喫茶「Blue」の名物レシピを再現したもの。纖維に沿ってスッと崩れるビーフが特徴だ。野菜のうまみや甘みをギュっと凝縮した濃厚なソースは、「湘南や鎌倉の野菜が美味しいので、レシピを再現したくなつた」んだとか。圧力鍋を使わず丁寧に煮込むので出来上がりまでに要する時間は14～15時間。徹夜で仕込むことも珍しくないという。「たくさん食べていただけるのはうれしいのですが、注文が集中すると『また徹夜か…』と(笑)」

※ビーフシチュー￥1470。サラダ、ライスorパン、ワンドリンク（アルコール可）が付いて￥2205。

（左から）オーナーの佐藤さん、チーフの西久保智則さん、スタッフの石井仁星さん



- ・ステーキと野菜のグリル（￥1260）=写真、手前 A5ランクの静岡牛ステーキと産地から取り寄せた野菜のグリル、会津の田楽味噌添え。写真は奈良県明日香村の人参、里芋、赤大根、菊芋。雑味がなく、生でも美味しい。牛肉はブランドにこだわらず、良質の物を仕入れる方針。しっかりステーキを食べたい方は「国産黒毛和牛ステーキ」（サラダ、ライスorパン、ワンドリンクで￥2625）をどうぞ。
- ・黒毛和牛のステーキサラダ（￥1470）=同、左上
- ・手羽先揚げ（1本￥210）=同、右上



他に会津特産の馬刺しや会津の味噌を使った田楽、それに「喜多方名物いためそば」という珍しい一品も。中華麺を炒めて醤油や胡麻油で仕上げる。いわば焼きうどんの中華麺バージョン。喜多方といえばラーメンが有名だが、「30～40年前はまだラーメン屋はそれほどなく、食堂のメインはいためそばとソースかつ丼でした。子供時代の思い出の味ですね。今は喜多方でも食べられるところが減っています」

ランチは月替わりのメニューでパスタやポークジンジャーなども。「お魚料理は近所の美味しい老舗にお任せします」

アルコール類は国産ワインと福島の地酒に力を入れている。季節性も考慮して、全国の信頼できるワイナリーがその時期に自信を持って出しているワインを少量ずつ仕入れる。日本酒は会津のものを中心に幅広く。会津坂下「廣木酒造」の「飛露喜」は、めったに見られない四合瓶（720ml）=写真、右二で扱っている。この時期しか飲めない初しほりのかすみ酒二同、左二も。

※全てのワインはグラスで注文可。日本酒はどれもほぼ￥500。



■営業時間 Lunch 11:00～14:00 Tea 14:00～17:00
Dinner 17:00～23:00

第1、第3月曜定休（祝祭日なら翌日）

0466-27-1901

■電話番号 住 所 藤沢市片瀬海岸1-11-20

シルフィード湘南

※小田急片瀬江ノ島駅、江ノ電江ノ島駅
いずれからも徒歩5分。片瀬江ノ島からの場合、駅正面を直進して洲鼻通りを左折。
右側に魚屋さんがある角を右折して左側。